



## 必要とされればどこへでも・・・

### —— AMDAの行動原則 ——

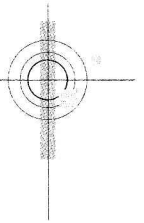
国連NGO AMDA(アジア医師連絡協議会)

代表理事 菅波 茂

AMDAは国連NGOとして25ヶ国に支部がある。AMDAのコンセプトは簡単明瞭であることが望ましい。なぜならAMDAの特徴は多言語、多文化そして多宗教の多様性であるから。AMDAはどこに行くのか。なにをめざしているのか。それは次の12の英単語に集約される。A GLOBAL NETWORK OF PARTNERSHIP FOR PEACE THROUGH PROJECTS WITH SOGO-FUJO SPIRITである。

PEACEとは世界中の人達に納得していただける平和でなければいけない。平和とは戦争が無い状態であるという単純さでは納得してもらえない。私たちの平和の定義は「家族の今日の生活と明日の希望が実現できる状況」である。今日の生活とは食べることと健康であることである。明日の希望とは子供たちに教育を受けさせることである。この平和をさまたげるものとして戦争、災害そして貧困がある。そしてPROJECTSは災害と貧困に対する共同作業である。

PARTNERSHIPとは3つの人間関係の1つである。他はFRIENDSHIPとSPONSERSHIPである。見分け方は簡単である。FRIENDSHIPは利も害も共にしない。SPONSERSHIPは利を共にするが害は共にしない。PARTNERSHIPは利も害も共にする。害とは困難のことである。なぜ困難をあえて共にしようとするのか。その実践の過程においてのみ「尊敬」と「信頼」が得られるからである。「尊敬」とは自分にはない素晴らしさを相手に発見することであり、「信頼」とはどんな困難においても決して逃げないことを知ることである。そしてこの「尊敬」と「信頼」が戦争に対する民間からの抑止力になるからである。PROJECTSは常にAMDA多国籍医師団の形で実施される。災害時あるいは難民緊急救援活動に複数の支部から医師達が参加する。現地に詳しい支部がリーダーシップをとる。他の支部はその支部を支援することになる。これがLOCAL INITIATIVEという現場主義である。



AMDAには人道援助の3原則がある。

- (1) 誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある。
- (2) この気持ちの前には民族、宗教、文化等々の壁はない。
- (3) 援助を受ける側にもプライドがある。

このプライドとは自分たちも社会から必要とされたい。認められたいという人間の根幹にかかわるものである。したがって、3種類の人間関係のうち一番危険な人間関係はSPONSERSHIPである。なぜなら常に「ありがとう」という言葉が一方的である。言い続けているうちにプライドが傷つき、卑屈になる。いずれ暴発することになる。上記の(1)と(2)は従来の人道援助形式である。人権思想の危険性はここにある。(3)の「援助を受ける側にもプライドがある。」を生かすのは相互扶助思想、すなわちSOGO-FUJO SPIRITである。「困ったときはお互い様。」「今私はあなたを助けているが、将来私が困ったときは助けてください。」これは時系列におけるPARTNERSHIPの人間関係である。

このPARTNERSHIPを地球的規模で展開しようという志がA GLOBAL NETWORK OF PARTNERSHIPである。以上のわずか12の英単語に集約されるAMDAのコンセプトを理解していただければ幸いである。

最後に「困難はPARTNERSHIPの泉である」との信念のもとにCHALLENGE SPIRITとHUMANITARIAN SPIRITで「必要とされればどこへでもいく」これがAMDAの普遍的行動原則である。